

死刑攻撃弾劾！ 金大中氏らの死刑



1977年(4月18日)ソウル市にて
4.19革命記念日の前日、
30万人の労働者・市民・学生を前に演説する金大中元大統領候補

9.17 日比谷野音に二万七千名、怒りの緊急行動！

光州市で二千名にもほる、労働者・市民・学生の生命を奪った全斗煥軍部独裁政府は、九月十七日、軍法会議で金大中氏に死刑判決、また文益煥氏（前韓国神学大学教授・牧師）ら二三名の民主人士にたいし懲役二十年から三年の重刑判決を下した。全斗煥軍部独裁政府は「金大中とその支持者が暴力により政権を奪おうとして、学生デモや光州事件を背後で操縦した」として、生死をかけて決起した光州蜂起に対し、階級的憎しみをもって報復の挙にてきたのだ。そもそも、光州五月蜂起こそ、永きにわたる暗黒の軍政支配に極限までつき落されようとしている民衆の生活苦と自由の圧殺に対し、やむにやまれず決起した南朝鮮人民の正義の闘いである。われわれは、この光州蜂起に連帯し、血ぬられた全斗煥軍部独裁政権による金大中氏らにたいする死刑・重刑攻撃を怒りをもって糾弾し闘いに決起しなければならぬ。今秋、三里塚・反戦の闘いを日本の地において大爆発させ、全斗煥と反動鈴木内閣を追いつめ、何としても金大中氏らを奪還していこう！

全斗煥を支える
日本政府を許すな

われわれは、この暴虐極まりない全斗煥軍部独裁政権を支持し、金大中氏を見殺しにし、南朝鮮人民への血の弾圧を加えている張本人が、反動鈴木内閣であることをはっきりとさせなければならぬ。

鈴木内閣は、発足早々「日韓関係は不変」と表明して以来一貫して全斗煥を支持し、金大中氏見殺しの方針を貫いてきた。そして今また、金大中氏死刑判決にたいしては、「判決の中には『金大中被告に対する国家保安法の違反については友邦国との関係により、これを不問に付す』とあり、ら到事件の政治決着には抵触しない」と強弁して、

この判決を支持する態度を表明しているのだ。

さらに、かかる情勢のなかで福田元首相は、九月二四日から訪韓し全斗煥らと会談をし、全斗煥へのテコ入れを強化しようとしている。

われわれは、こうした反動鈴木内閣の全斗煥支持・金大中氏抹殺の攻撃を断じて許してはならない。

死刑判決弾劾
県労連と共に
日比谷へ決起



金大中氏への死刑判決に怒りを燃した労働者・人民は、十七日、日比谷野音で開催された「軍法会議を中止せよ！金大中氏らを釈放せよ！九・一七国民大会」に続々と結集した。

集会は、金大中氏死刑判決に抗議し、金大中氏の見殺しを図る日本政府を弾劾する声で埋めつくされた。

動労千葉も、県労連とともにこの集会に参加し、結集した一万七千名の最先頭をになって日比谷から国労会館前までのデモを闘い抜いた。全組合員のみなさん。

われわれは、今こそたたかう朝鮮人民との真の連帯する闘いの質が問われている。金大中氏死刑攻撃阻止・三里塚二期工事阻止・軍事大国化阻止をかがげ今秋闘争へ決起しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ。

日刊 動労千葉

80.9.19
No. 537

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八・九・(会衆)三三三三・七三〇七